

論文

日韓の幼児教育課程の現状についての検討 - 特に身体関連（健康及び表現）の比較 -

Inspection of The Current state of Early Childhood Education Programs in
Japan and South Korea
- Comparison of body-related "Health and Expression"-

宮本 隆信（高知大学教育学部）¹

陸 調永（韓国体育大学）²

権 萬根（韓国体育大学）²

MIYAMOTO Takanobu¹, YOOK Cho-Young², KWON Man-Guen²

¹ Faculty of Education Kochi University

² Korea National Sports University

Abstract

Japan and South Korea of early childhood education programs, particularly focused on the health and expressions is an area associated with the body, target, were compared and content. As a result, Japan and South Korea of early childhood education curriculum, basic goals, and many similarities content was found to be seen especially in the body-related (health and representation). In addition, we aim to be able to express rich sensibilities and thoughts while being fully involved with the surroundings in the daily life of infants. However, while Japan comprehensively composes the whole kindergarten education as a figure that wants to be raised at the end of early childhood without dividing it by age, South Korea divides the area in detail according to age and learns by that age.

I 目的

日本と大韓民国（以後、韓国）の学校教育制度は、単線型教育制度を採用しており、小学校から大学までにおいて全体的な構成、教育課程、教科構成、教科内容など多くの類似点があることが明らかにされている。（刈谷他 2005^a）また教育制度だけでなく子どもたちの教科（体育科の好嫌度）に対する考えなども類似している。（刈谷他 2005^b）

また義務教育以前の幼児教育についても日本、韓国とも幼稚園、保育所があり、幼保二元体制で実施されていた。しかし、2000 年ごろから少子化による幼稚園の就園率の減少問題、女性の社会進出にともなう保育所不足などの問題から、日本では 2006 年「認定こども園」制度が始まり、また韓国においてもオリニチブ（保育施設）と幼稚園の教育課程を一元化する「ヌリ課程」制度が 2012 年から開始されている。ヌリ課程のヌリは、世の中を意味し、5 歳の子どもが保育所や幼稚園で夢と希望を思い切り享受する」という内容を含んでおり、小学校に入学する前のすべての子どもたちに一定の教育水準を保障するという大きな目的を持っている（裴海善 2014）。このように幼児教育においても日本と韓国では類似点が多いことが考えられる。

日本では、子どもたちの身体活動量の低下や身体をとおしてイメージを想起する、身体を使って動きを工夫するといった身体的な表現の経験の乏しさがみられる。韓国において、教育熱の高さは世界的によく知られており、就学前においても高いといわれており、韓国の子どもたちにも日本と同様の問題があることが推測される。そこで、日本と韓国の幼稚園教育課程、特に身体に関連する健康および表現に焦点をあてて、子どもたちの身体にかかわる教育をどのように考えているのか、身体にかかわる領域である「健康」および「表現」の目標、内容などを比較検討することを目的とする。

II 方法

日本の幼稚園教育要領と韓国のヌリ課程の身体にかかる内容領域の目標や内容を比較検討する。

日本の幼稚園教育要領は、2018（平成 30）年の幼稚園教育要領（文部科学省,2017）であり、韓国のヌリ課程は、2015 年のヌリ課程（教育部,2015）である。

日本の幼稚園教育要領は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の 5 領域が設定されており、身体にかかる領域としては、「健康」及び「表現」である。

韓国のヌリ課程は、「身体運動・健康」「意思疎通」「社会関係」「芸術経験」「自然探求」の 5 領域が設定されており、身体にかかる領域としては、「身体運動・健康」及び「芸術経験」である。

対比する領域として日本の「健康」と韓国の「身体運動・健康」、日本の「表現」と韓国の「芸術経験」として、目標、内容について比較検討を行う。

III 結果および考察

1. 教育課程の教育目標

幼稚園教育の目標として、日本は、生きる力の基礎を育むため、幼稚園で育みたい資質・能力として、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等の基礎」を設定している。これら 3 観点について、具体的な言葉を示している。また幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を設定して、育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿を提示して教師に子どもたちの具体的な姿をイメージできるようにしている。

表1 日韓の幼稚園教育の目標

日本	
育 み た い 資 質 ・ 能 力	豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
	気づいたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力・判断力・表現力等の基礎」
	心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
韓国	
目 標	基本運動能力と健康で安全な生活習慣を養う
	日常生活に必要なコミュニケーション能力と正しい言語を使用する習慣を養う
	自分を尊重し、ほかの人と一緒に生活する能力と態度を養う
	美しさに関心をもって芸術の経験を楽しみ、創造的に表現する能力を養う
	好奇心をもって周りの世界を探検し、日常生活の中で数学的・科学的に考える能力と態度を養う

これら日本の幼稚園教育においては、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むことに努めるよう求められている。

一方、韓国のヌリ課程では、ヌリ課程の目的として、「3~5 歳の幼児の心身の健康と調和のとれた発達を助け、民主市民の基礎を形成すること」としている。また目標は、領域設定されている 5 領域（「身体運動・健康」「コミュニケーション」「社会問題」「芸術経験」「自然探求」）について 5 つ設定され、幼児期の適切な発達を促し、市民としての基礎を培うことを目標としている。

表2 日韓の健康領域の目標

日本	
領域	健康
幼児期の終わりまでの育ってほしい姿	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う
ねらい	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しを持って行動する
韓国	
領域	身体運動・健康
目標	基本運動能力と健康で安全な生活習慣を養う

幼稚園の教育目標から、日本では子どもの育てたい資質・能力と具体的な姿を示し、教育活動を総合的にとらえ一体的に育んでいく

ことが求められているのに対し、韓国では、幼稚園年代での調和のとれた発達のため、各領域での目標を具体的に設定することで子どもたちを育てようとしている。

日本の幼児期に終わりまでに育ってほしい姿、韓国の民主市民の基礎を形成することという内容は、ともに小学校教育への接続を意識していると推測される。

2. 「健康」(日本)と「身体運動・健康」(韓国)の目標

健康に関する領域での目標については、日本は幼児期の終わりに育ってほしい姿が明示され、ねらいとして3観点が具体的に記されている。この幼児期の終わりに育ってほしい姿というのは、目標を具体化した子どもの姿であり、幼稚園教育が終了するときに目指される子どもの姿をイメージさせている。またこの内容は、運動と生活習慣に分けて示されていることがわかる。

韓国は、目標が設定されており、この目標には基本運動と生活習慣という2つの内容が示されている。日本、韓国ともに「健康のための体を育てることと安全な生活ができる力を養う」という点で目標は共通していることがわかる。

3. 「健康」(日本)と「身体運動・健康」(韓国)の内容

日本の「健康」と韓国の「身体運動・健康」の内容を比較すると、

表3 日韓の健康領域の内容	
日本	
内容	内容
内容	先生や友達と触れ合い、安定感をもって、行動する
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす
	進んで戸外で遊ぶ
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む
	先生や友達と食べることを楽しみ食べ物への興味や関心をもつ
	健康な生活のリズムを身に付ける
	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする
	幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら、見通しを持って行動する
	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する
韓国	
内容範疇	内容
身体を調整する	感覚能力を育て活用する 身体を認識して動く
調整と基本運動を行う	身体調整をする 基本運動をする
身体活動に参加する	自発的に身体活動に参加する 外で身体活動を行う 器具を利用して身体活動を行う
健康に生活する	体と周辺を衛生的にする 正しい食生活をする 健康に生活する 病気を予防する
安全に生活をする	安全に遊びを行う 交通安全ルールを守る 緊急時、適切に対処する

日本の「健康」内容は、10の内容が示されている。韓国の「身体運

表4 韓国「身体運動・健康」領域の年齢別内容		3歳	4歳	5歳
身体調整する	感覚能力を育て活用する	感覚の違いを経験する	感覚の違いを区別する	感覚で対象や物事の特徴と違いを区別する
	身体を認識して動く	感覚器官を認識し、活用してみる	複数の感覚器官を調整して活用する	複数の感覚器官を協応して活用する
調整と基本運動を行う	身体調整をする	身体各部分の名称を知って、動きに関心をもつ 自分の身体を肯定的に認識して動く 身体のバランスを維持してみる 空間、力、時間などの動きの要素を経験する 身体の調整、身体各部分の動きを調節してみる 目と手をコーディネーションして、小筋肉を調整してみる	身体各部分の特性を理解して活用して動く 自分の身体を肯定的に認識して動く 様々な姿勢や動きで身体のバランスを維持する 空間、力、時間などの動きの要素を利用して動く 身体各部分の動きを調整しながら動く 目と手を調節して小筋肉を調整してみる	身体各部分の特性を理解し、活用して動く 自分の身体を肯定的に認識して動く 様々な姿勢や動きで体のバランスを維持する 空間、力、時間などの動きの要素をコーディネーションして動きを調節する 目と手をコーディネーションして小筋肉を調整してみる
	基本運動をする	ウォーキング、ランニングなどの移動運動を行う 所定の位置で体を動かして動く	ウォーキング、ランニング、操業など様々な移動運動をする 所定の位置で体を多様に動かす	ウォーキング、ランニング、操業など様々な移動運動を行う 所定の位置で体を多様に動かす
身体活動に参加する	自発的に身体活動に参加する	身体活動に自発的に参加する ほかの人と一緒に身体活動に参加する	身体活動に自発的、継続的に参加する 他の人と一緒に身体活動に参加する	身体活動に自発的継続的に参加する ほかの人と一緒に身体活動に参加する
	外で身体活動を行う	定期的以外で身体活動をする 器具を利用して身体活動を行う	定期的以外で身体活動をする いくつかの器具を利用して、身体活動をする	定期的以外で身体活動をする 様々な器具を利用して身体活動をする
健康に生活する	体と周辺を衛生的にする	手や歯をきれいにする 方法を知り、実践する	手と歯をキレイにする方法を知り、実践する 身の回りをきれいにする習慣を養う	自ら体をきれいにする習慣を養う
	正しい食生活をする	食べ物とバランスよく食べる 体に良い食べ物に興味をもつ 正しい姿勢で食事をとる	食べ物とバランスよく食べる 体に良い食べ物を選ぶ 食べ物大切にテーブルマナーを守る	適量の食事をバランスよく食べる 体によい食べ物を選択することができる 食べ物大切にテーブルマナーを守る
安全に生活をする	健康に生活する	定期的に睡眠をとって適度に休息する 日常生活で楽しく生活する	定期的に睡眠をとって、適度に休息をとる 一日を楽しく過ごす	定期的に睡眠をとって、適度に休息をとる 一日楽しんで生活をする
	病気を予防する	病気の危険性をしって、注意する 天候にあわせて服を着る	病気を予防する方法を知って実践する 天候や状況に合わせて服を着る	病気を予防する方法をしって、実践する 天候や状況に合わせて服を着る
安全に生活をする	安全に遊びを行う	遊び道具や遊具を安全に使用する 安全な場所を知って、安全に遊ぶ	遊び道具や遊具を安全に使用する 安全な場所を知って、安全に遊ぶ	遊び道具や遊具の正しい使い方をしって、安全に使用する 安全な場所を知って、安全に遊ぶ
	交通安全ルールを守る	交通安全のルールを知って保持する 交通手段を安全に利用する	交通安全のルールを知って保持する 交通手段を安全に利用する	交通安全のルールを知って保持する 交通手段を安全に利用する
緊急時、適切に対処する	虐待、性暴力、行方不明、誘拐状況の時に助けを求める方法を	虐待、性暴力、行方不明、誘拐状況の時に助けを求める方法を	虐待、性暴力、行方不明、誘拐状況の時に助けを求める方法を	虐待、性暴力、行方不明、誘拐状況の時に助けを求める方法を
	災害や事故など緊急時に適切に対処する方法を知って行動する	災害や事故など緊急時に適切に対処する方法を知って行動する	災害や事故など緊急時に適切に対処する方法を知って行動する	災害や事故など緊急時に適切に対処する方法を知って行動する

動・健康」の内容は、内容の範疇として5つに大別されており、そこから内容として14が示されている。

ねらい、目標で設定されている運動と生活習慣の観点で見ると日本は、運動の内容が5つ、生活習慣の内容が5つであった。韓国は運動の内容が7つ、生活習慣の内容が7つであり、これらのことから日本、韓国とも健康に関する内容の運動と生活習慣の比率はともに同じであることが分かった。具体的な内容も十分に体を動かす、戸外で遊ぶ、身の回りを衛生的にする、安全に気を付けて行動するなど、ほとんど同じ内容を意味するもので構成されている。

日本の幼稚園教育要領では、内容はこの10であるが、韓国のヌリ課程では、さらに年齢別3~5歳の詳細内容が設定されており、14の内容について、3歳、4歳では25の詳細内容が、5歳では33の詳細内容が設定され、より具体的な内容が示されており、各年代で

の具体的な内容が設定されている。このことから、日本は目標やねらいとしてあげられている幼児期の終わりに育ってほしい姿として年代を区切らず育成していくことを目指し、韓国は各年代の具体的な内容を設定することによって教育の質を保障しようとしている。

4. 「表現」（日本）と「芸術経験」（韓国）の目標

表現に関する領域としては、日本では「表現」、韓国では「芸術経験」という領域である。この領域の目標については、日本は幼児期の終わりに育ってほしい姿が明示され、ねらいとして具体的に3つ記されている。韓国は、目標として1つが設定されており、これらは「健康」の領域と同様である。細かく見てみると、日本の方では、表現することに重点を置いており、そのために生活の中で自分なりの表現を楽しむこととしている。韓国の方では、表現する能力を育てていくというのは日本と同様であるが、美しさへの興味と芸術の経験を楽しみながら創造的に表現する能力を育てていくという点が異なる部分である。

目標という点では、日本は生活の中で感じたことをイメージ化し表現する能力の育成に重点を置いており、韓国は領域の名称となっている芸術を経験することを通して、創造的に表現する能力に重点をおいて、能力を育成しようとしていることがわかる。

表5 日韓の表現領域の目標	
日本	
領域	表現
幼児期の終わりまでの育ってほしい姿	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする
ねらい	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
韓国	
領域	芸術経験
目標	美しさに興味をもって芸術の経験を楽しみ創造的に表現する能力を養う

日本は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」が主に該当すると考えられる。日本の教育要領解説では、幼児は毎日の生活の中で身近な環境と関わりながら多くのことを感じながら、身体を動かしたり、描いたり、歌ったり様々な表現方法を経験しながら、感性を磨いていくとしている。韓国のヌリ課程では、芸術の美しさを経験することによって感受性を豊かにして、表現する能力を磨いていくとしている。

5. 「表現」（日本）と「芸術経験」（韓国）の内容

日本の「表現」と韓国の「芸術経験」の内容を比較すると、日本

の「表現」内容は、8の内容が示されている。韓国の「芸術経験」の内容は、内容の範疇として3つに大別されており、そこから内容として10が示されている。

日本の表現における内容のうち、身体にかかる内容として、「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に書いたり、作ったりなどする」、「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」など3つが該当すると考えられる。これらは、生活の中で感じたことや考えたことを身体の動きとして表現するとしている。またこれらは身体にとどまらず、音楽や楽器の演奏、言葉などでも表現するとしており、感じたこと考えたことを何かしらの方法で表現することでの楽しさを大切にしている。

韓国の芸術経験における内容では、身体にかかる内容は、「美しさの参照」にある「動きとダンス要素の探索」と「芸術的な表現を行う」にある「動きとダンスで表現する」「伝統的遊びで表現する」「統合的に表現する」など4つの内容が該当すると考えられる。「美しさの探索」にある「動きとダンス要素の探索」では、自身の動きやダンスにある美しさを感じることにしている。また「芸術的な表現を行う」にある「動きとダンスで表現する」「伝統的遊びで表現する」では、先の動きやダンスの美しさを感じ、それらを実際に表現することとしている。さらに伝統的遊びから表現を行うなどが設定されている。韓国の方では、領域名称にある通り、芸術にある美しさを感じ、それらを自身で自由に表現していくということを大切にしている。

表6 日韓の表現領域の内容	
日本	
内容	内容
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気づいたり、感じたりするなどして楽しむ 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ 様々な出来事の中で感動したことを伝え合う楽しさを味わう 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に書いたり、就くtt理などする いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう
韓国	
内容範疇	内容
美しさの探索	音楽的要素の探索
	動きとダンス要素の探索
	美術的要素の探索
芸術的な表現を行う	音楽で表現する
	動きとダンスで表現する
	美術活動で表現する
	伝統的遊びで表現する
芸術鑑賞	統合的に表現する
	様々な芸術鑑賞する
伝統芸術を鑑賞する	

この日本の「表現」韓国「芸術経験」の身体にかかる内容は、ともに身体のみならず感じたこと、考えたことを身体やそのほかのものをつかって、表現していくことを中心的な内容としている。特に日本は生活の中、韓国は美しさという芸術的な中から、表現を経験していく内容となっている。

表7 韓国「芸術経験」領域の年齢別内容		3歳	4歳	5歳
美しさの参照	音楽的要素の探索	様々な音、音楽の強弱、速さ、リズムなどに興味を有している	様々な音、音楽の強弱、速さ、リズムなどに興味を有している	様々な音、楽器などで音楽の強弱、速さ、リズムなどを探索する
	動きとダンス要素の探索	動きとダンスの形、強さ、速さなどに興味を有している	動きとダンスの形、強さ、速さなどに興味を有している	動きとダンスの形、強さ、速さ、流れなどを探索する
	美術的要素の探索	自然と物事の色、形、質感などに興味を有している	自然と物事の色、形、質感などに興味を有している	自然と物事の色、形、質感、空間などを探索する
芸術的な表現を行う	音楽で表現する	簡単な歌を聴いて歌う	歌で自分の考えや感情を表現する	歌で自分の考えや感情を表現する
		童謡を楽しくて歌う	童謡を楽しくて歌う	童謡を楽しくて歌う
		リズム楽器で簡単なリズムを表現してみる	リズム楽器を演奏してみる	リズム楽器を演奏してみる
		簡単なリズムと歌を即興で作ってみる	簡単なリズムと歌を即興で作ってみる	リズムと歌などを即興で作ってみる
	動きとダンスで表現する	身体を利用して周辺の動きを自由に表現する	動きを自由に表現する	身体を利用して周辺の動きを多様に表現し楽しむ
		動きとダンスで自分の考えや感情を表現する	動きとダンスで自分の考えや感情を表現する	動きとダンスで自分の考えや感情を表現する
	美術活動で表現する	表現するツールを活用して様々な動きで表現する	表現するツールを活用して様々な動きで表現する	様々なツールを活用して、創造的に動く
		様々な芸術活動を経験してみる	様々な芸術活動に自分の考えや感情を表現する	様々な芸術活動に自分の考えや感情を表現する
			協同的な美術活動に参加する	協同的な美術活動に参加して楽しむ
		美術活動に必要な材料とツールに関心を持って使用する	美術活動に必要な材料とツールを多様に活用する	美術活動に必要な材料とツールを多様に活用する
芸術鑑賞	伝統的遊びで表現する	日常生活の経験や伝統遊びで表現する	日常生活の経験や簡単な話を創造遊びで表現する	日常生活の経験や簡単な話を創造遊びで表現する
			小物、背景、衣装などを使用して協同的に創造びをする	小物、背景、衣装などを使用して、協同的に創造びをする
	統合的に表現する	芸術活動に参加して、表現過程を楽しむ	音楽、動きとダンス、美術作品、創造びなどを統合して表現する	音楽、動きとダンス、美術、創造びなどを統合して表現する
			芸術活動に参加して表現過程を楽しむ	芸術活動に参加して、創造的に表現する過程を楽しむ
	様々な芸術鑑賞する	様々な音楽、ダンス、美術作品、創造びなどを聴いたり、見たりしている。	さまざまな音楽、動きやダンス、美術作品、創造びなどを聴いたり、見たりして楽しむ	様々な音楽、ダンス、美術作品、創造びなどを聴いたり、見て楽しむ
		自己と他の人の芸術表現を大切にする	自己と他の人の芸術表現を大切にする	自己と他の人の芸術表現を大切にする
芸術鑑賞	伝統芸術を鑑賞する	韓国の伝統芸術に興味をもつ	我が国の伝統芸術に興味をもつ	韓国の伝統的な芸術に関心をもつ

IV 結論

日本と韓国の幼稚園教育課程、特に身体に関連する領域である健康及び表現に焦点をあてて、目標、内容などを比較検討した。

1. 幼稚園教育の目標は、日本韓国ともに心身の調和のとれた発達をめざしており、小学校教育への接続を意識している目標を設定していた。
2. 「健康」(日本)と「身体運動・健康」(韓国)の目標は、日本、韓国ともに「健康のための体を育てることと安全な生活ができる力を養う」という点で目標は共通していた。
3. 「健康」(日本)と「身体運動・健康」(韓国)の内容は、日本、韓国とも運動と生活習慣の比率が同じであり、具体的な内容も体を動かす、戸外で遊ぶ、身の回りを衛生的にする、安全に気を付けて行動するなど、同じ内容で構成されていた。
4. 「表現」(日本)と「芸術経験」(韓国)の目標は、日本は生活の中で感じたことをイメージ化し表現する能力の育成に重点を置いており、韓国は領域の名称となっている芸術を経験することを通して、創造的に表現する能力に重点をおいて育成しようとしている。

5. 「表現」(日本)と「芸術経験」(韓国)の内容は、ともに身体のみならず感じたこと、考えたことを身体やそのほかのものをつかって、表現していくことを中心的な内容としているが、表現の中心となるものは異なっていた。

以上のことから、日韓の幼児教育課程、特に身体関連(健康及び表現)において基本的な目標、内容など多くの類似点がみられることが明らかになった。また幼児の身近な日常生活の中で周り十分にに関わりながら、豊かな感性や考えなどを表現できるようになることを目指している。しかし、日本は幼稚園教育全体を通して、幼児期の終わりに育てたい姿として年代として区切ることなく総合的に構成しているのに対し、韓国は年齢別に領域内を詳細に区分しその年齢で身につける内容で構成している点で違いがみられた。

今後は、これら身体にかかる領域の幼児の学びの実際について、日本、韓国両国の現場の調査を実施し、この分野の問題や課題などに取り組んでいきたいと考えている。

V 文献

- 裴海善(2014)「韓国の保育政策と保育所利用実態」筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学部紀要 9, 166p)
- 呉地初美(2014) 韓国の幼児教育の現状と課題-「ヌリ課程」を中心として-, 日本教育史論集第1号, p51-58, 早稲田大学大学院日本教育史研究会
- 교육부 (2015) 유치원 교육과정, 교육부 고시 제 2015-61 호
- 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説, フレーベル館
- 秋月茜他(2020) 幼児の「表現」領域に関する教育課程の日韓比較-身体表現に着目して-, 札幌学院大学人文学会紀要, 107号, p109-121
- 刈谷三郎他 (2005^a) 韓国・日本における初等(小)学校体育課程の変遷に関する比較研究, Korea Sport Research, 16-1, pp587-598
- 刈谷三郎他 (2005^b) 日韓小学生の教科別好き嫌い度比較研究, 2005 KSR International Convention of Sports Science, pp39-50
- 佐野道夫(2013) 韓国の幼児教育政策 (1), 子ども教育宝仙大学紀要, 4, pp77-86